

(委員からの代替案)

はじめに

豊中市立図書館は、これまで4地域館を中心とした体制のもと、全域を担う図書館ネットワークを構築し、サービスを行ってまいりましたが、将来にむけてサービスの維持向上および効果的・効率的に事業を推進できるあり方として、中央図書館を核とした体制への移行を提案されました。

現在の岡町図書館の建物は、昭和44年(1969年)建設からほぼ50年が経過しており、遠くない時期に建て替えが必要となります。今後の施設配置を検討するうえで前提となるものが、施設の維持管理について市としての方向性を示す「公共施設総合管理計画」です。将来にわたって安定して市の公共施設を維持管理するためには計画的に施設総量、全施設の床面積の2割削減に向けて長期的に取り組んでいく必要が示されています。このことから図書館も中央図書館を核とした施設再編を検討し、限られた資源(人材・資料・予算)を有効に活用していくことが求められています。

これを受けて、図書館協議会として、中央図書館を核とした施設配置のあり方および、中央館、地域館・分館それぞれの機能分担のあり方やふまえるべき点などについて平成29年度から2年間かけて議論してきました。

図書館のサービスは、市民にとって最も身近な図書館である地域館や分館によって担われています。地域の図書館がそれぞれの住民にとっての「私の図書館」を実感できるような存在になることが、豊中市全体の図書館サービスの質を高めていくこととなります。中央図書館の機能を考えるにあたっては、図書館資源や情報を集約することの目的が、地域館・分館のサービスをさらに充実するためであるという点を基本に据えることが大切です。

平成32年度には中央館機能を持った図書館や図書館全体の適正配置のあり方をまとめた中央図書館構想が策定されることになりました。図書館協議会として、この2年間の議論をふまえ、中央図書館と地域館・分館が持つべき機能について、地域館や分館のサービスの充実とともに、専門性の高いサービスを長期的にかつ安定的に提供していくために欠くことのできない視点を意見書として提示するものです。

## 中央図書館機能

各地域館・分館からの利用状況、地域情報、潜在的ニーズ、事例（サービス、レファレンス、相談、行事等図書館活動全般）を集約・整理する。

集約した情報をもとに豊中全体として図書館活動の現状分析や、先進事例の調査・研究を行う。

図書館全体の基本方針・サービス計画を立案し、豊中全体としての事業展開を推進する。

人員体制・応援体制を整備し、地域館・分館のバックアップや行事等の応援に対応する。

災害や事故等のリスク発生時には司令塔的な役割を担う（関係部局・機関との連携窓口、長期化する場合の対応等）。

プレスリリース等を一括で管理し、効果的なPR・情報発信を行う。

レファレンス（資料・人材）を集約し、高度なレファレンスに対応する。

地域館・分館からのレファレンス依頼をバックアップする。

レファレンス事例を集約・整理し、レファレンス協同データベースへの登録や市民への公開等、知の蓄積が広く利用できるよう整備する。

対外的な連携窓口として、関係部局・機関との連絡や調整を行う。

## 地域館・分館機能

地域情報・利用者ニーズを、地域に出向いて把握する。

把握した情報をもとに、地域の特色を活かした図書館サービスを立案・実施する。

地域情報・利用者ニーズ、利用状況を中央館にフィードバックする。

災害や事故等のリスク発生時には、初期対応にあたる。

身近なレファレンスコーナーとして初期対応し、必要に応じて中央図書館を紹介する。

中央図書館からのバックアップにより、資料群とともに回答を届ける。

## 留意すべき視点

市民ニーズの把握が適切にできれば、中央図書館／地域館・分館がそれぞれの機能を生かせる。

ニーズ把握では、市民に身近な地域館・分館の職員が地域に出て、市民・地域との繋がりの中で情報を得ることが求められる。

中央図書館構想でも、今まで市民に近いところで培ってきた豊中市の図書館活動、市民協働による図書館づくり、図書館運営がベースとなる。

中央図書館に資料や人を集中させるメリットはあるが、地域館・分館それぞれの館が自主的な主体性を持って決めていく仕組みが大切で、中央図書館には地域館の活動をバックアップする機能が求められる。

## おわりに

平成 30 年 6 月、市の「基本政策」の 1 つ目の柱である「教育文化先進都市とよなか」に「中央図書館構想の策定」があげられました。11 月にはその教育文化先進都市を目標とした取り組みを進めるため「豊中市の教育及び文化の振興に関する総合的な施策の大綱」が策定され、その方針として誰もが豊かな人生を送ることが出来る環境を作るため、生涯学習の充実が挙げられています。図書館は、知の拠点であり、生涯学習の支えとなる施設です。

これまで豊中市立図書館は、図書館運営に関する自己点検の評価システム、定期的な外部評価などにより、地域特性に応じた図書館サービス、市民のニーズにこたえる図書館作りにつとめてきました。その結果、「豊中市公共施設等総合管理計画策定にかかる市民アンケート」では「過去 1 年間に利用した公共施設」で 1 位、「優先的に充実させていくべき施設」で 2 位と、市民にとって重要な公共施設となっています。効率化を求めるあまり、安易なコスト削減、人員削減によって図書館の質を落としてしまうことのないよう留意しなくてはなりません。

今後、中央館構想策定に向けた議論を進めるにあたっては、これまでの豊中市立図書館のあり方をふまえ、「豊中市の教育及び文化の振興に関する総合的な施策の大綱」に掲げられた、すべての子ども、若者が自分の人生を切り拓く力を育み、誰もが豊かな人生を送ることが出来る環境をつくる取り組みに必要な施設として、そのあり方を考えることが重要です。教育文化先進都市とよなかにふさわしい中央図書館構想が策定されるよう、この意見書を提出します。